

すべての海城生の皆さんへ
保護者の皆様へ

2024年11月21日

本校の部活動の未来について

海城中学高等学校
校長 大迫弘和

戸山の原に地を占めた海城の学舎に、日々、海城生の生き生きとした英気が漲っていることを嬉しく、また誇らしく思います。今、海城は、限りない可能性と未来を持った学園としての確実な歩みを続けています。これからも海城は、海城で学ぶすべての海城生にとって最高の学校になることをひたすら追い求めていきます。

マスメディアの用いる言葉を使うなら「屈指の進学校」ということになる本校ですが、本校は「新しい学力」と「新しい人間力」を育て（その二つの力を統合した人間としての総合知のことを「海城知」と命名しています）、卒業後は「新しい紳士」として「国家・社会に有為な人材」を送り出すことを目標にしています。

その教育目標を達成するために部活動は大変大きな役割を果たしています。2024年6月の段階で高校では16の運動部に612名、25の文化部に616名（他に吹奏楽団に33名）が参加、中学では11の運動部に728名、19の文化部に624名（他に吹奏楽団25名）が参加しています。このように多くの海城生が部活動の中でしっかりと成長を遂げています。

さて海城知の獲得を目指す本校の教育にとっての部活動の大切さは言を俟たないことですが、今回、「本校の部活動の未来について」と題するこの文書で、皆様に理解していただきたいことがあります。

前述のように本校は現在中高合せて73の部活動があります。一つの部に最低2名の顧問の先生が付くとすると146名が必要ということになります。本校の専任教諭の数は94名です。ですから一人で複数の部の顧問をしていただく形でこれまでの部活動は成り立っていました。

2019年2月に労働基準監督署からの指導がありました。現在、皆さんもよく耳にする「働き方改革」が日本社会の課題として浮上り、本校の先生方の勤務についても検討を余儀なくされました。学園の更なる発展を実現する「働き方改革」と向き合うことになりました。海城にとっての最重要事項は言うまでもなくこれまで積み上げてきた教育を更に前進させ続けることです。長い模索、葛藤の時間が始まりました。

私が校長に着任した2023年4月の少し前に、部活動についての未来像を描く取り組みが具体的に動き始めていました。それは大切な部活動をどのような形で運営していくのが

海城の未来にとって望ましく、海城生に対して責任ある姿勢になるかを考えたものでした。「働き方改革」と同様に、日本全体の問題として「部活動の地域移行」を文部科学省が正式に打ち出していることも、海城の部活動の未来像を描くにおいては外せないという認識もあります。

さて、このような流れの中で既にいくつかの部活動については継続が難しいと思われ、部員の皆さんにはそのことをお伝えしているケースがあります。ただし、その場合も現在の部員の方々が最後まで活動できることは保障しています。

海城という学校そのものが1891年に設立された歴史ある伝統校ですから当然部活動の中にも伝統を誇るものもありますが、場合によっては卒業生の方々には残念な思いをさせてしまうこともあるかもしれません。どうか海城のこれからの未来に思いを馳せていただき、学園全体としての更なる発展のために、ご理解いただければと願います。

生徒の皆さんも、先生方も、海城という学舎で生き生きと毎日を過ごしている、そのような海城をみんなで心をつなげて作り上げていけたらと願っています。